

JCS NEWS

vol.

53



MEMBERS VOICE

R-329 平野千世さん

CELLO BIENNALE AMSTERDAM 2018

チェロはいつも新しい出会いや喜びを私に運んでくれます。最近のハイライトは昨年秋の「チェロ・ビエンナーレ・アムステルダム」です。このビエンナーレは2年に1回、オランダで開かれており、2018年は7回目でした。テーマは「音楽の力/チェロの力」。その世界観を体現するレジデンス・アーティストとして、ジョルディ・サヴァールとジョヴァンニ・ソツリマが招聘されていました。朝9時から深夜までミッシェル・マイスキやジャン・ルイ・ギラン・ケラスなどの著名なソリストや音大生の演奏会をはじめ、コンクールのレクチャーなどのイベントがあり、一日中チェロ漬けで過ごせます。期間中のある日には、駅ピアノで有名なアムステルダム中央駅でチェロアンサンブルのフラッシュモブもあったそうです。私は3日間6つの演奏会と3つのマスタークラスを楽しみました。プログラムにはクラシックの定番曲だけでなく、ポップスやジャズ、ソツリマの新作などの現代曲もあり、チェロの新しい表現や可能性の広がりに驚き、興奮しました。最終イベントの「Cello Coupé」ではお芝居のようなステージにすっかり魅了されました。また、ホスピタリティも素晴らしく、朝9時開演の「Breakfast」前には軽食、最終日深夜の「Cello Coupé」終演後にはワインが振舞われ、出演者や裏方の皆さんも交えて大盛り上がりでした。このビエンナーレはチェロ界の交流とインスピレーションの場となっており、今後の展開がますます楽しみです。またいつの日か再訪したいものです。

CONTENTS

第9回チェロの日開催報告	2-3
チェロ・サロン開催報告 アウトリーチ実施報告	4
ジュニア・チェロ・キャンプ 講評(続編)	5
Cellist's update	6-7
メンバーズ 事務局からのお知らせ 編集後記	8

第9回 チェロの日 Report

いつもの仲間も、
新しい仲間も
チェロを持って
集まった。

アウトリーチ実施報告



チェロ・サロン 開催報告



Special Thanks

2018年度 ご寄附をいただいた方

今年度、25名の方からご寄附(総額577,000円)を頂戴いたしました。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

- | | |
|----------|----------|
| 赤石 裕之さん | 佐藤 亮さん |
| 浅倉 直子さん | 田邊 登崇さん |
| 今井 勝男さん | 長谷川 陽子さん |
| 入内島 健さん | 松崎 松平さん |
| 植草 ひろみさん | 松波 恵子さん |
| 荻原 佐和子さん | 山口 浩史さん |
| 亀谷 義仁さん | 山本 裕康さん |
| 木村 和美さん | 結城 典夫さん |
| 斎藤 建寛さん | 横坂 源さん |

※ご承諾を得ている方のお名前を掲載いたします

WELCOME

2018年度 新規入会者のご紹介(ご入会順)
今年度は、新たに40名の方に加わっていただきました。

正会員 24名

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|---------|
| 大友 肇さん | 綿貫 かおりさん | 吉田 邦由さん | 門多 治さん |
| 高坂 知節さん | Braxton Neateさん | 川原 明子さん | 高橋 泉さん |
| 久武 麻子さん | 津賀 沼 浩さん | 桃原 用昇さん | 稲垣 素子さん |
| 名取 由恵さん | 市田 こころさん | 桃原 直子さん | 佐渡 文彦さん |
| 朝川 慎一さん | 水谷 由紀子さん | 鈴木 皓矢さん | 荒 庸子さん |
| 小林 真弓さん | 滝川 友紀子さん | 大木 潜さん | 塩手 康弘さん |

学生会員 16名

- | | | | |
|----------|----------|---------|---------|
| 名取 徳頭さん | 波多野 太郎さん | 市田 凜さん | 岩崎 弓夏さん |
| 石井 麗美さん | 鳥羽 咲音さん | 水谷 桜さん | 林 貴弘さん |
| 中鉢 晃太郎さん | 稲本 愛歌さん | 堂向 純央さん | 藤原 寛太さん |
| 山本 大さん | 伊藤 健太郎さん | 滝川 桃可さん | 藤原 百花さん |

2019年度 主催イベントのご案内

■第3回 ジュニア・チェロ・キャンプ

日時：2019年9月21日(土)・22日(日)
会場：桐朋学園大学 調布キャンパス
募集内容：アカデミー(ソロ演奏コース、アンサンブルコース)、発表会、懇親会など
対象：2019年9月時点で、小・中学校に通っている児童・生徒
講師陣：堀了介、堤剛、山崎伸子、ほか
※詳細は準備が整い次第ウェブに掲載いたします。
募集要項が必要な方は事務局までお知らせください。

■アジア・パシフィック・チェロ・コングレス 2020

日時：2020年2月7日(金)・8日(土)・9日(日)
会場：サントリーホール 大ホール、ブルーローズ、リハーサル室、ほか
出演者：未定

※詳細が決まり次第、チラシを送付いたします。ぜひ今からご予約ください。

編集後記

天気予報では花粉飛散予測や桜の開花予想などよく耳にするようになりましたが、いかがお過ごしですか。新年度に入ると、初々しいスーツ姿を見かけるようになり、あれやこれやという間に今年は10連休になる方もいるとか。新しい年号も気になる今日この頃ですね。チェロ協会では、2019年度開催予定の催事について、皆さまのお力を借りながら企画・運営を進めています。コングレスも控えていますので、どうぞお楽しみに。ボランティア STAFF も募る予定ですので、この機会に当協会の活動にご賛同いただける方は、ぜひ事務局までお問い合わせくださいませ。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第53号 2019年3月30日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル 22階 私信箱 509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堀剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム

VOICE

R-382 稲石 薫

私は第3回チェロの日から毎年参加しており今年で6回目になります。「チェロの日」の大きな特徴はプロとアマが一緒にアンサンブルする点だと思います。今回コンマスを務めた向山佳絵子先生が参加された練習会で、印象的なでき事がありました。その日のブラジル風パッサムの通し練習の際、2番パートの私は入る箇所がわからずに困っていたところ隣で弾いていらした1番パートの向山先生が2番パートの入る箇所を指さして下さいました。お陰で1番パートとタイミングを合わせて2番パートを弾くことができました。プロの方が何気なく合図を出して下さった事も嬉しかったし、自分が咄嗟にその合図を読み取って音楽の流れに乗ることができた事も嬉しかったです。これこそアンサンブルの醍醐味だと思います。本番終了後、打ち上げの前にもその場に居合わせた仲間と寒空の下テラスで飲んだビールと爪楊枝で食べたソーセージの味も忘れられない思い出になりました。

S-161 菅井 瑛斗

初めてチェロの日に参加した時はオーケストラの後ろの方に座りました。沢山の方々に囲まれチェロオケの演奏をしたあの時の暖かい感覚は未だに忘れられません。でも演奏会の前半でソロを弾いている先輩を見ながら「いつかあの場所で演奏したい」と毎年憧れていました。

そして今年、遂にソロの出番を頂きました。あれだけ憧れていた舞台ですが、実際に立ってみるとかなり独特な環境です。視界の前面には満員のお客様、そして横と後ろにはチェロを持ったオーケストラの方々という360度全方向チェロ好きに囲まれた中でたった1人で演奏するのです。しかし舞台上に乗り最初の音を出した瞬間、不思議な感覚に包まれました。沢山のチェロが一緒に共鳴してくれているような気がしたのです。

今回は本当に貴重な経験が出来、とても嬉しかったです。スタッフの皆様、先輩方、先生方、そして周りでサポートして下さいました方々のお陰で無事演奏会を終えることが出来ました。これからは周りの皆様に恩返し出来るように日々精進しようと思います！

S-196 岸田 眺輔 (小学3年生)

去年は「いつか出られるといいな」と思わず言っていたチェロの日、今年はその夢がかなってすごく嬉しかったです。

特に岩崎先生は僕の先生の先生で、会えた時は本当に感動しました。鈴木皓矢先生の音は力強く濃い音で、今まで感じたことがない情熱を感じました。水谷川優子先生と鈴木大介先生のチェロとギターという組み合わせは初めてで、聴く前からワクワクして最初の音から、わあ！という感じで、ずっと心の中で最高に盛り上がっていました。チェロゼミナールでは鈴木秀美先生のお話が面白くてずっと先生の顔に見入ってしまい、そんな自分にびっくりしました。特に古楽器の説明は興味津々で、古いチェロが本当にほしくなっていました。

僕の出番のチェロオーケストラでは憧れの先生が勢ぞろいで、すごい！と思っていました。一番難しかった曲はブラジル風パッサム1番で、かすかな恐怖と楽しみが感じられる曲でした。速くて難しいところは他の人に助けられて最後にはうまくできました。

チェロの日はすごく楽しくて、うれしくて、心がはれて、チェロを今までやってきてよかったと思いました。先生方、スタッフの皆様ありがとうございます。来年はもっと曲を増やしてほしいです。



チェロ・ゼミナール
パッサムの組曲～楽器の様々な状態～師ビルスマ等について
講師：鈴木 秀美氏

チェロの日イベントの中にあつてチェロ・ゼミナールは参加者のチェロライフがより豊かになるような興味あるお話を伺うのが基本コンセプトで企画段階からいろんなアイデアを出し合います。以前から、鈴木秀美さんにパロックチェロについて語っていただきたいとの声が出ていたのですが、今回やっと念願叶って実現する運びに。鈴木さんはチェロを持ってゼミナール会場にお越し下さいました。そのチェロとはアマテイ作と言われている楽器本体側面に絵が描かれて文字が書かれた美しいパロックチェロ。そのチェロとパロック弓を見せていただきましたながら時間棒たっぷりとお話いただきました。

私にとって興味はあるがどう接して良いか判らなかつたパロックのお話でした。まずは演奏法、スチール弦では沢山弓を使い響きを増すが、ガットでは弓を使い過ぎないのが大事とのこと。弦の特性でここまで違うとはと目から鱗でした。また、弓はなるべくずつと弦の上に置いておく、大事な音は駒の近くで、そうでない音は指板の近くで弾く等の当り前の事について注意できました。

鈴木 秀美氏の著書のご紹介



鈴木さんは神戸・御影のご出身でお兄様が教会でオルガンを弾いておられて通奏低音が欲しいと言われてチェロを始めました。じつは私(藤井)も御影の出身で、その教会は実家から徒歩圏内にあるのでどこかで鈴木さんとすれ違っていたかもしれないと感慨深かったです。そんな鈴木さんの通奏低音にかける思いを綴られたエッセイ本が出ているのと、パッサムの無伴奏チェロ組曲の解説について詳しく解説された本も出版されています。またYouTubeを検索するとオランダでインタビュに答えられている映像を見ることが出来ます。今回は時間の制約があつて残念ながら演奏を聴かせていただけなかったのですが、ご自身のホームページにコンサート情報が載っています。ぜひ会場に足を運んでパロックチェロの素晴らしい響きを体感して下さいませぬ。

R1305 藤井 直
R1279 芳山 朋史

いつもの仲間も、
新しい仲間も
チェロを持って
集まった。

第9回
チェロの日
Report

Text: サラサーテ編集部 向後由美
Photo: © Takashi Fujimoto



日本チェロ協会のホームページにアップされたプログラムを眺めては、今回はどんな出会いがあるか？と心待ちにしていた「チェロの日」。私は8年前にチェロを購入して習い始めるも、忙しさを言い訳に、現在は「聴く」専門の会員になってしまいましたが、このチェロの祭典は毎年楽しみにしている音楽イベントのひとつです。今年も2日間、客席で「チェロ」を堪能しました。

チェロと仲良くなる日

最初に登場したのは5年半にわたるスペイン留学を終え、昨年帰国したばかりの鈴木皓矢さん。ユダールの《無伴奏チェロ・ソナタ》作品8を確かなテクニックで演奏。技巧的に難しい作品として知られていますが、そうした余計な感情に邪魔されることなく、ユダールの音楽に没頭させてくれました。

続いての水谷川優子さんは言わずと知れた人気チェリスト。多方面で活躍するギタリストの鈴木大介さんとの共演で、フアリヤの《スペイン民謡》を演奏。ラテンのリズムに会場の雰囲気は一変しました。次に演奏されたステファン・ゴスの《偶像の庭園》は、ギターとチェロのために書かれた作品です。ギターとチェロは、音量や音色の面で相性が良くよく言われますが、この作品はそうした利便性のようなものを超え、アンサンブルの可能性の広さを感じさせてくれました。次の曲目、加藤昌則による《ケルト・スピリッツ》は、スカボロー・フェアやグリーン・スリッパスといったスコットランドの伝統的な民謡のメドレー。水谷川さんの軽やかで、時に力強いチェロと、鈴木さんのリズムミカルで透明感のあるギターとが融合。終始、次の展開にワクワクしながら演奏を楽しみました。

1日目最後は、ベテラン岩崎先生によるショパンの《チェロ・ソナタ》ト短調作品65。ピアニストはショパンを得意とする松本和将さんで、「チェロの日」ならではの贅沢な共演でした。岩崎さんはこの作品を、ショパンが最晩年に発表した作品であるということに念頭において改めて見直し、通常よりもゆつたりとしたテンポでじっくりと演奏することにしました。演奏会後の懇親会にて語られました。味わいのある岩崎さんのチェロの音色は感情の深さを、松本さんが奏でるピアノの音色は心の複雑な動きを表しているかのようで、アンコールに演奏

チェロでひとつになる日

翌日は、若手チェリストによる無伴奏作品の演奏から。桐朋学園大学音楽学部1年在学中の菅井瑛斗さんが尾高惇忠の独奏チェロのための《瞑想》を、桐朋学園ソリスト・ディプロマコース4年に在籍する香月麗さんがイザイの《無伴奏チェロ・ソナタ》を演奏。様々なコンクールで優勝・上位入賞を果たし、既に演奏会もこなしているふたりは、堂々とした演奏を披露し、今後の活躍を期待させました。

後半は「チェロの日」のメインとも言える、「チェリストの集い」参加者、約70名によるチェロ・オーケストラ。「チェロの日」のテーマ曲とも言える小林幸太郎の《チェロの為のハモニックファンファーレ》でスタートしました。指揮と進行は山本祐介さん。続いて演奏されたチェロアンサンブルの名曲、クレメンゲルの《ヒムヌス》は、心地良いハーモニニーの中に、コンサートマスターの向山佳絵子さんをはじめとしたトッパ奏者が奏でるソロの旋律が美しく響きわたりました。続いて、ケテルビーの《ペルシャの市場にて》、いずみたくの《見上げてごらん夜の星を》と昭和生まれにはなじみ深い曲が演奏され、最後のヴィラロポスの《ブラジル風パッサム》第1番は圧巻の演奏で、一体感のある重厚なアンサンブルを聴かせてくれました。

盛りだくさんの2日間はあつという間に過ぎてしまいましたが、ここで出会った奏者の演奏会に行き、新たに知った作曲家や作品についてはまた別の側面から掘り下げたりして、そうこうしている間に、またこの日がやってきます。「チェロの日」の良さは、この場限りではなく、さらに次へとつながっていくところにある、と感じています。



菅井 瑛斗



香月 麗



事務局スタッフと



岩崎 光



水谷川 優子



鈴木 皓矢

第2回 ジュニア・チェロ・キャンプ

Photo by 村岡友美

Junior Cello Camp

講評続編



参加者数 講師：1名/クリニック受講生：2名/アンサンブル参加者：29名/聴講：9名 合計43名(会員：33名・非会員：6名・スタッフ：4名)

Cello Salon

チェロ・サロン 開催報告

2018年11月17日(土)に、サントリーホールリハール室で、辻本玲さんの主宰によるチェロ・サロンが開催されました。1998年に初めて開催されたチェロ・サロンから数えて、実に41回目となりました。

辻本玲さんは、東京藝術大学を卒業後、シベリウス・アカデミー(フィンランド)、ベルン芸術大学(スイス)に留学していらつしやります。国内における数々のコンクールで入賞されていらつしやります。現在は、日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・チェロ奏者としても活躍なさっています。

チェロ・サロンの前半は、チェロ歴が30年、40年というお二人のチェロ・クリニク。芳山朋史さんは、ブラームスの《チェロ・ソナタ》第2番第1楽章の冒頭部分を、花房克磨さんはシューマンの《幻想小曲集》作品73から課題曲をお持ちになりました。

ワンポイントクリニックを受講して

R-388 花房 克磨

シューマンの幻想小曲集の第1曲を教材に初めて受講しました。演奏する前は自分としては上がっていないつもりだったのですが、いざ弾き始めてみると余計な力が入り、聞き辛い音が次々と出てしまいました。先生からエンドピンの長さや体の使い方という、音を出す以前の問題点を指摘していただきました。アドバイスを従ってエンドピンを短くし、体の軸の使い方も変えたら音がずっと良くなり、かつ、弾きやすくなったのでとても驚きました。

今回は、辻本先生とチェロ協会のご厚意で録音がOKでした。後で聞き返して「ここはこう弾いた方がよい」という指導には映像があったらなあと思いつつも、受講時の様子を思い出しながら復習することが出来るのは大変ありがたいです。

受講して唯一の想定外だったのは、会報誌に記事を書く依頼がセットで付いてきたことでした。それが最初から分かっていたら受講しなかったか。いや、それでもやっぱり受講したと思います。今回は貴重な機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

堀先生より



今回アンサンブルを担当して、本当に皆さん羨ましいなと思います。私の学生時代はアンサンブル(特にチェロアンサンブルなどは殆どゼロ)経験が少なかったことや、レッスンの時や、コンクールで審査員の前以外に人前で弾くチャンスがそんなになかった。君たちは同じ世代じゃなくても合奏できて羨ましいなって、すごく思ってたんです。初めは緊張していたかもしれないけど、本番はみんな楽しんで弾いてくれたのですごく嬉しかったです。本番はすごく良かったと思います。それぞれ、各自他人の弾いている音を聴きあっている感じがしました。自分が弾くのも一番大事だけれども、アンサンブルではお互い同じ音楽を弾いている、という気持ちが大切でそれが楽しいと思います。

私がお客さんにはわからないけれど、「行くよ」、「いいよ」みたいな感じで弾いていることがある、そういう楽しさがアンサンブルの醍醐味。皆さんも今、直ぐにうまく弾けなくても、良い音で弾こう、誰かの音を良く聴こうとか、お互い相手の音楽に興味を持つと全体的に良い演奏につながると思います。

私が留学先でピエール・フルニエ先生に、同じ音、例えばドの音を4種類弾けって言われて、不快な音や良い音いろいろと試すと、「オッケー!次にお客さんが最も良い音を聞きたいとき、君はどの様に考えて弾くのか?」って、その時はその意味が良く理解出来なかった。綺麗な音はやっぱりなくて、ちよっと粗めの音とか、ちよっと激しい音と「グッ」「ガッ」って弾くと、そういう音が全体の音楽に全て繋がっていく、みたいな事を言われましたが、それが後々になってから理解出来ました。右手で音色とか音楽性を色々な弾き方で音楽を作り上げる事が大切なんだ、という事を教わったのが、その後の演奏で多いに役立ったと思います。音

色はその人の名前みたいなもので、いろいろあっても良いと思います。それから練習というのはいくら落ち込んでくさいこともあり、先生に怒られて落ち込むこと、失敗もあるだろうけれども、それを乗り越えてほしい。そして普段はみんな良い友達ですが、ある意味では良きライバルでもある、この人には負けたくないという気持ちを持つ事がすごく大切。それをいつも忘れないように練習してください。今度またお会いした時に、さらに成長しているのが聞きたいなと思っています。今日は本当にお疲れ様でした。

中島先生より



今日聞いていてどのクラスもそうだったと思うんですが、本当にこういう機会というのは貴重だと、そしてこれから毎日より高いところを目指して勉強してほしいなと思いました。ここに並んでいる先生方はもうスペシャリストな人だけ、この先生たちにも初歩はあったんです。初歩を大切にしなければいけない、そして上級生の人もまた原点に戻ってください。始めた時の心を大切に、いい音が出てきた時の喜び、それから次の曲を弾けたときの喜び、「あ、こんな曲が弾けた」という、そういうのをいつも感じながら勉強してほしいなと思います。

一つ気になったことを言わせてください。今日コンサートの子どもの様子も見ていただきました。その半分くらいお客様の様子も見て聞いていらしたのは、山崎先生でした。みんな自分の子が出てくる、この辺(こめかみ)がくっついて上がって「また同じところ間違えた、本当に音楽を楽しんでほしい。最後には皆さんの良い顔で聞いて頂きたいんですが、自分の子供

アウトリーチ実施報告



R-421 高橋 麻理子

2018年11月27日、国立成育医療研究センターにてチェロ協会主催のアウトリーチに参加しました。以前子供がお世話になったこの病院で何かできないかと思い、ボランティアとして働くスタッフさんに「ミニコンサートをさせてもらえないか」と連絡を取ったのがきっかけで、ここ数年は年一回ほどですが、ロビーでチェロとピアノのコンサートをさせてもらっています。長谷川陽子さんがここでアウトリーチをしているということはスタッフの方から聞いていましたが、今回はチェロ協会主催のイベントとして、ご協力いただきました中美穂さん、石島栄一さん、芳山朋史さんとともに、チェロカルテットで演奏させていただきました。

まずはお昼時に外来一階のエントランスホールにてコンサートがスタート。小さな子供たちや赤ちゃん連れの親御さんたち、お腹のふくらしたママたちが、出てきたチェロの4人を面白そうに見ています。

「星に願いを」から始まり、「トトロのテーマ」や、「世界に一つだけの花」などをトークを交えながら演奏していくと、身体を揺らして聴いてくださる方や、一緒に歌ってくれる子どもたちがたくさんいました。

午後からは小児病棟を4ヶ所廻って演奏するというので、久しぶりに病棟にお邪魔して少しの緊張感や懐かしさを感じるとともに、入院当時は親も子供も大変だったことをすごく思い出しました。病棟ではボランティアのスタッフさんのスムーズな連携で演奏場所のセッティングや、消毒がきびきりと進められています。看護師さんたちが病室を廻って

が出てくると、目が点になって、大丈夫かなと思ってしまふ、そうじゃなくて音楽を心から楽しんで、聴衆から盛り上げて頂きたいです。

一つ私は良い経験をしたことがありまして、昔の東ドイツ、今の北朝鮮と同じような状況の東ドイツに子どもたちを連れて行ったことがあるんです。向こうに住んでいらっしゃる人は本当にひどい状況で、食べ物もないような状態。でも引率した子供たちにはずいぶん優遇していただいたんですね。それでコンサートがあった子供達と一緒に弾いたんですが、ステージからパッと会場を見たら、自分達よりもよっぽど豊かで、幸せな顔で聴いて下さっている。音楽の持つ力と共に、すごく反省して帰ったのを覚えています。聴いてくださる方というのは本当に大切だと思いますので、ぜひみんな、特にお母様、お父様方はすごく大切な役目だと思おうので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

菊地先生より



ジュニア・チェロ・キャンプ、僕は初めてだったんですが、こんなにたくさん素直に拍手してくれているお客さんを見て、僕達も嬉しくなりました。この機会を糧として成長して貰いたいなと思います。

もう一つ思ったのは、皆さんとてもレベルの高い曲を小さいうちから勉強しているんですが、先程から話に出ているように基礎の力というのを常に考えてほしい。僕が一番自分で弟子に教えているの

子供たちに声をかけてくれ、私たちが演奏を始めるというの間に沢山集まってきてくれてとても真剣に、そして楽しんで聴いてくれました。「チェロの音って初めて聴いたんだよ!」と何度も嬉しそうに私たちに話しかけてくれた子もいて、なんだかこころもとても嬉しい気分になります。「アウトリーチ」とは手を伸ばす、手を差し伸べる、という意味ですが、こちら側が伸ばした手をしっかりと子供たちが握ってくれたような感覚がありました。

あつという間の短い時間でしたが、演奏者だけではなく色々な方々のサポートがあつて一つのコンサートとして形になった時、決して独りよがりではなく、相手にもちゃんと伝わる時間が持てたのを実感できたと思います。

アウトリーチは、最初は小さな芽かもしれませんが、少しずつ水をあげていけば、きっと大きな樹になるのでは、そんな気がしています。

最後になりましたが、共演者の皆さん、チェロ協会事務局の皆さん、お忙しい中駆けつけてくださった長谷川陽子さん、児玉真さん、そして成育医療研究センターのボランティアスタッフの皆さん、ありがとうございました!



アウトリーチ実施報告 日時：2018年11月27日(火) 実施場所：国立成育医療研究センター(東京都世田谷区) 参加者：高橋 麻理子、中美穂、石島 栄一、芳山 朋史

は、コスマンとかそういう指の訓練のエチュードなんですね。曲ばかりじゃなく、その指の訓練のエチュードをやるようにすすめてます。若い時は気が付かないかもしれないですが、年取ってくるとだんだん筋肉の扱いが変わってくる。基礎を大切にしているかどうかで、長く続けられるかどうかの差が出てくると思います。将来のこと、長くチェロを続けていくことを考えたら、やっぱり基礎の力というものがとても大切。そういうことを忘れないで、ずっと続けていくためのことを考えてやっていただけならば、とんでもないです。この二日間の経験は、とてもためになったと思うので、忘れずに頑張っていくつもりです。





© Eugene Nakamura

R-543 Koya SUZUKI

鈴木 皓矢さん

1. 近況を教えてください

留学から帰国し10ヶ月程が経ちましたが、ありがたいことにオーケストラに呼んで頂いたり室内楽、ソロ、チェロアンサンブル等様々な活動をさせて頂いています。最近ではギタリストの林祥太郎君と組んでDUO CHISPAとしてコンサートを開催したり動画作りに動んでいます。

また、教えることにも興味があり、最近少しずつ始めました。教えることで初めて「昔先生が仰っていたのはこういうことだったのか!」というような気付きが多くとても有意義です。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

ある日、幼稚園から帰って来たら突然母に「今日からチェロやるわよ」と言われたのが僕のチェロ人生の始まりです。チェロというものがどんなものなのか全く知らなかったにも関わらず、何となくこの先の大変な道程を感じ取ったのか、泣き叫んだのをよく覚えています。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

舞台上、「あ、今お客さんと一体になれるな」と感じられる瞬間。それとプログラムを考えている時。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

料理と登山と海とバドミントンとスケートボードと映画観賞が好きです。いつかスカイダイビングがしてみたいです。



S-150 Tatsuki SASANUMA

笹沼 樹さん

1. 近況を教えてください

ソロリサイタルを年に数回開催するほか、カルテット・アマビレとして東京では王子ホール、白寿ホールなどでコンサートを開催しています。N響アカデミー生としてNHK交響楽団

の演奏会にも月に数公演出演しています。

東京でのソロリサイタルは、2019年は9月10日に白寿ホール、11月10日に学習院大学百周年記念会館でのコンサートを予定しています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

学習院初等科在学中の7歳の時に管弦楽部の演奏を目の当たりにし、弦楽器、とりわけチェロがかっこいいと思ってやってみたくて思いました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

お客様と一緒にホールの中で空気感をつくりあげていると感じられる瞬間です。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

全国各地の美味しいもの探し、酒の肴〜甘いものまで。食べ物を記録するためだけのInstagramアカウントがあります。(@tatsuki_sasanuma)

5. 第9回チェロの日のご感想をお聞かせください

本当に幸せて光栄な舞台でした。大きなモチベーションと共にあった準備期間も幸せでしたし、多くのお客さんの前でコーデイを演奏できた当日も本当に幸せでした。師である倉田澄子先生にも少しは成長した姿をお見せ出来たかなあと。今回大変久しぶりに催しに参加させて頂いたのですが、若いチェリストから大先輩の先生方まで、アマチュアからプロまで、縦も横も繋がることの出来る機会を作って下さるチェロ協会は本当に素晴らしいなと改めて感激した日でもありました。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

今後についてははっきり決まっているわけではありませんが、クラシックからクロスオーバーな活動まで色々な経験を積んでいきたいと思っています。また、僕の父は作曲家なので、父の器楽作品を広めていくのが僕のライフワークの一つです。

Upcoming Events

新進演奏家育成プロジェクト リサイタル・シリーズ TOKYO82

鈴木 皓矢 チェロ・リサイタル

日時/2019年7月24日(水)開演19:00 開場18:30

会場/東京文化会館小ホール

料金/2500円(全席自由)

出演/鈴木皓矢(Vc) Pf 未定

問/公益社団法人日本演奏家連盟 03(3539)5131 <http://www.jfm.or.jp>

東京文化会館チケットサービス 03(5685)0650 <http://www.t-bunka.jp/>

e+(イープラス) <http://eplus.jp/>

7月24日に東京文化会館小ホールで開催されます僕のリサイタルには是非お越し頂きたいです。留学先で学んだプログラムに加え、父の無伴奏チェロ組曲も演奏します。バラエティに富んだプログラムですので、必ずお楽しみ頂けると思います。

5. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか

現在、ソロ活動、室内楽の活動だけでなくオーケストラにも強い興味を持って取り組んでいます。師事する堤先生もソリストとしてだけでなく室内楽の名手、名教授としての顔を持ちますし、堤先生の先生であるシュタルケル先生もオーケストラ奏者、名教授としても活動されました。堤先生からも「全部をやろうとするのは本当に大変なことだよ」と言われているのですが、現在重点を置いている3つの活動の勉強を続けていきたいですし、発展させていきたいです。

Upcoming Events

デビュー・アルバム「親愛の言葉」

(2019年1月日本コロムビアCOCQ85447)

収録曲:

- カサド: 親愛の言葉
- シヨパン: チェロとピアノのためのソナタ 作品65より第3楽章
- フォーレ: 夢のあとに
- サン＝サーンス: 《サムソンとデリラ》より「あなたの声に私の心は開く」※チェロ編曲版
- ポッパー: 演奏会用ポロネーズ 作品14
- シヨパン: ノクターン第20番(遺作)※チェロ編曲版
- カタルーニャ民謡/カザルス編: 鳥の歌
- 間宮芳生: チェロとピアノのための六つの日本民謡より「ちらん節」

共演/入江一雄 (Pf)



R-493 Mikio UNNO

海野 幹雄さん

1. 近況を教えてください

2人の息子(5歳と3歳)の子育てに振り回されながらも、様々な形態での演奏活動を中心に、忙しく楽しい日々を送っています。

2. チェロを始めたきっかけは？

チェリストである母親が、結婚後18年間も演奏活動を休止していましたが、活動再開したのは僕が中学生の時でした。それを見て、「僕もやりたい」と言って習い始めました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

ソロや室内楽の演奏会の計画を立てている時と、息子達のプレゼントを選んでいる時。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

実は大のスターウォーズ好きで、今では子供と一緒に見たり、SW柄の子供服を買い揃えたりと楽しんでいます。

5. ハマの JACK の活動についてお聞かせください

N響ヴァイオリニストの三又治彦氏と白井篤氏、それと僕の3人で理事を務めているNPO法人です。季節ごと年4回の定期演奏会が主な活動ですが、特に春公演は「金の卵を探しています」のオーディション企画で若者の育成発掘に特化しており、お陰様で高い評価を頂いています。



© Masaru Mizushima

R-555 Yuko MIYAGAWA

水谷川 優子さん

1. 近況を教えてください

ここ数年間は月1回ペースでヨーロッパと日本を往復する旅鳥生活です。3月は初めてシンガポールへ、現地のオーケストラと協奏曲を演奏させていただきました。

2. チェロを始めたきっかけは？

姉がヴァイオリンを弾いていたため、指揮者だった祖父が「2番目は男でも女でもチェロがいいな」と言ったため、まだ生まれる前のことでした。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

もちろんコンサート中!それから気の合う仲間たちとのリハーサル中や心をくすぐる新しい曲に出逢ったときなど。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

料理!!旅先でも市場に行ってみますが、新しい素材に出会うとどんな物を作ろうかワクワクウキウキ。そしてワイン!(もちろん一人では食べません。)

5. 第9回チェロの日のご感想をお聞かせください

コンサートの準備から懇親会までいろいろな方とお話できて、この協会が堤先生をはじめとして沢山の方のチェロへの情熱により、大切に培われてきたのを実感しました。アマチュア・プロの垣根なく、チェリストはチェロが大好きなのだ改めて感じられた、幸せな時間をいただきました。翌日のアンサンブルも伺って良かったです!

Cellist's Update

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

実は、今続けている活動がどれもすごく大切です。徐々に定着しつつある活動(毎年続けているリサイタル、毎月続けている横浜でのサロンコンサート、組んでいるピアノ三重奏、毎年主催している12人のチェロアンサンブル、プロデューサーとしても関わっているフィリアホールでの「室内楽アカデミア」、ハマのJACKでの活動など)の合間を縫ってオーケストラへ客演させて頂いたり、仲間たちとの室内楽があったり、小学校などへ訪問演奏の機会を頂いたり、本当に多くの演奏の機会を頂いています。その上で欲を言うならば、時間をかけて弦楽四重奏に取り組みたい、特にベートーヴェンの後期の弦楽四重奏の世界にドブプリ浸かりたい、という願望があります。また、古楽の奏法や弓にも興味があり、チャンスがあればチャレンジしていきたいです。あとは、現代音楽を積極的に演奏していきたい、という気持ちも強いです。

40歳を過ぎて、子供も生まれて、残り人生で何ができるかな、と考えるようになってから、改めてやりたいことが山ほどある事に気付きました。周りの人に感謝しつつ、健康に気を付けて、常に向上心を持って活動していきたいと思っています。

Upcoming Events

Salon de Violoncello vol.100 :

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲室内楽版の夕べ

日時/2019年5月2日(木) 開演19:00

会場/横浜市民会館

料金/一般2000円、学生1000円

出演/海野幹雄(Vc) 白井篤(Vn) 海野春絵(Pf) ほか

問/salon.de.vc@gmail.com 新演チケットサービス03-3561-5012

横浜市民会館で2008年から始めたサロンコンサートシリーズが、2019年の5月に100回記念を迎えます。始めた当初はまさかこんなに続くとも思いませんでしたが、毎月弾きたい曲をどんどん弾いているうちに、お客様に喜んで頂けるだけでなく、いつのまにか自分自身の成長に欠かせないものとなって来たことに気付き、どんなに他の演奏が忙しい時期も、年10回のペースを崩さず続けてきました。今回は、日頃お世話になっている仲間たちと共に、ドヴォルザークのチェロ協奏曲を、室内楽伴奏版で演奏します。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか？

日本では海外の知られざる作品、海外では邦人作品を通常のレパートリーに組み込んでコンサートで取り上げて行きたいと思います。各時代に埋もれかけている作品ももっと弾いていきたいし、ソロ、アンサンブルでの委嘱作品も少しずつ増やしたいものです。もしそれで他の方が弾いてくださったら嬉しい。あと小さな曲ばかりですが、無伴奏のアレンジなども自分で行なっているのもっと手掛けてみたいと思っています。

Upcoming Events

水谷川優子チェロ・リサイタル・シリーズ vol.12

～北欧のマエストロを迎えて～

日時/2019年5月10日(金) 開演19:00

会場/紀尾井ホール

料金/S席5000円、A席4000円、学生3000円

出演/水谷川優子(Vc) マーク・ゴトニー(Vn) ラルフ・ゴトニー(Pf)

問/コンサート イマジン 03-3235-3777

日本との外交100年を記念して、フィンランドの演奏家を招いて(実は主人とその父なのですが、長年アンサンブルを弾いている仲間)シベリウスが幼い娘を失った慟哭が聴こえてくるような「マリコニア」からマッティ・ラウティオによる「ディバルティメント」などなど変化に富んだレパートリーを演奏いたします。ラウティオ作品はあまり知られてないのですが、一度聴いたらお気に入りになること間違いなし!ラルフ・ゴトニーが「十年図」にインスピレーションを得た書き下ろし作品は深く美しい瞑想曲ですし、三重奏曲はそれぞれの楽器のソリスティックな面とアンサンブルの楽しさが詰まったドヴォルザークの「ドゥムキー」を取り上げます。拙いながらも、すこしでもチェロの魅力を伝えられたらと思っています。

“水谷川優子 YouTube チャンネル” を開設しました!

https://m.youtube.com/channel/UCz_4LLOrkAkkopi771kD8iw

